

キリスト者はフルタイムで働く

教皇フランシスコメッセージより

カトリック信者は自らの信仰をパートタイム（一時的に）実践するか、または都合の良い時だけ信仰により頼むことはできず、キリスト者であることはフルタイムの仕事に就くことを意味する。

と教皇フランシスコは指摘した。

人々が聖霊に向かって心を開かず、自らを神によって清め、照らしていただかないなら、「私たちがキリスト者であることは表面的なことになってしまうでしょう」と教皇は5月15日、毎週恒例の一般謁見で語った。

神の望まれることを理解し、実行することは、単に人間の努力だけではできず、聖霊の働きによって作り変えていただく必要がある、と教皇は強調した。

教皇フランシスコはバチカンのサンピエトロ広場に集まった8万人以上を前にして、今年9月にイタリアのサルデーニャ島を訪問することも発表した。

現地では、教皇自身の出身地であるアルゼンチン・ブエノスアイレスの地名の由来になった「ボナリア」または「ブオナ・アリア」（イタリア語で「良い空気」または「順風」の意）の聖母のイコンに崇敬を表すことも明らかにした。

教皇は一般謁見の講話では「信仰年」について語り、19日の「聖霊降臨の主日」を前にして、信者の人生と教会を真理へ導く聖霊の働きについて焦点をあてた。

聖霊を通して「生きる原則」に 教皇は講話の中で、現代世界は真理について懐疑的だとして、前教皇ベネディクト16世による相対主義についての警告を繰り返した。

前教皇によると、相対主義は何事も決定的ではなく、真理は民意または個人の思いつきに基づくとする考え方。

しかし、イエスは「私たちがそれを理解できるように、私たちの間に来られた」真理だ、と教皇フランシスコは指摘した。

「真理は物事のように据えられるのではなく、真理は出会うものです。

それは所有できるものではなく、キリストのうちに、「ある人格と出会うことです」と教皇は語った。

聖霊は復活されたキリストからの人類へのたまものであり、それは人々がイエスは真理のみことばであることを理解し、認識できるようにさせるためだったと教皇は強調する。

聖霊を通して、神のみことばとおきては、「私たちの心に刻み込まれ、私たちの選択を識別する上での原則となり、私たちの日常の活動を導く、生きる原則となります」と教皇は指摘した。